

- 2010年より、毎年2月1日から3月18日を「サイバーセキュリティ月間」に設定。関係機関・団体と連携し、サイバーセキュリティに関する普及啓発活動を集中的に実施。
- 2022年は、幅広い層に認知度高いコンテンツとのタイアップや、事業者とコラボした具体的対策の発信等を新たに実施。

情報発信の強化

- トップメッセージ**
月間の開始にあわせ松野官房長官メッセージを発信
- 事業者とコラボした具体的対策の発信**
OSや無線LANルータに係る民間事業者・団体とコラボレーションし、実際に利用される機器やサービスごとに、アップデートや多要素認証の利用など、最低限取り組むべき具体的対策を発信
- コラム**
産・学・官・民の各分野で活躍している女性ブレイカーや、東京2020大会の対策を担った方々によるコラムを発信
- SNS**
上記内容について、期間中、Twitter等を用い積極的に情報発信



官房長官メッセージ
「サイバーセキュリティ月間」を一つの機会として、改めてサイバーセキュリティに意識を向け、「全員参加」で取組を進めていただきたい

牧島かれん @makishimakaren · 2月1日
「サイバーセキュリティ月間」始まりました! #サイバーセキュリティは全員参加

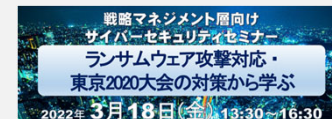
- タイアップ**
『マクロス』とタイアップし幅広い世代に訴求できる3種類のポスターを制作 各県警や学校等へのポスター配布、デジタルサイネージの提供を実施

月間期間中のイベント等開催

<NISCの取組>

- NISC-CTF※**
各府省庁・独法等の職員がサイバーセキュリティに関する幅広い技術・能力を競うオンライン競技会を開催(参加登録111名)
- 戦略マネジメント層向けWebセミナー**
サイバー攻撃の被害を受けた企業等から経験を通じて得られた気付き、東京2020大会に行われたサイバーセキュリティ対策等を講演(参加登録547名)

※CTF : Capture The Flag



<民間主体の取組例>

- サイバーセキュリティマンデー**
ユーザーに正しい知識を身につけてもらうことを目的に、2月の毎週月曜日に、サイバーセキュリティに関する情報を定期発信
- みんなでシェアして、みんなを救おう。#迷惑メール展**
フィッシング詐欺メール等の実例を、業界別や手法別にカテゴリ分けし、対策や実録コラムもあわせて掲載



その他、本月間関連行事はオンライン中心に約140件開催 中には、セキュリティに関する無料講座キャンペーン等もみられた

実施による主な効果

- ◆ 期間中の特設ページPV(ページビュー)数は延べ約17万回(前年比10%増) ※アンケート(n=1,050)
 - ◆ 新たな対策の実施(回答者の63%が実施:うち無線LANルータ26%、パスワード関連17%)や身の回りの方への情報シェア(回答者の53%が実施:うち家族30%、同僚20%)につながった。
- ※ 本月間の実施結果・アンケート結果については、官民のアクションプランである「サイバーセキュリティ意識・行動強化プログラム」の見直しにも活用予定